



南の光明

The Catholic Diocese of Naha Newsletter

今年の教区の目標

すべての命を守るため、
キリストと共なる
平和の道を歩みましょう。

〒902-0067 那覇市安里3-7-2
カトリック那覇教区本部
TEL.098-863-2020 FAX.098-863-8474
発行人 W.F.バートン司教 1部40円
<http://www.naha.catholic.jp/>

(1) 2020年11月1日 (毎月1日発行) カトリック那覇教区報 MINAMI NO KŌMYŌ 第744号 (11月号)

11月 死者の月

再臨への熱い待望を新たに!

今月、教会は一日に「諸聖人の祭日」、二日に「死者の日」を記念することから、十一月全体を「死者の月」と定めています。使徒信条の中で唱えている「聖徒の交わり」、かつては「諸聖人の通功」という言葉が使われていましたが、この教えが「死者の月」の意義をよく示しています。

今、私たちは、この世において神の道を辿りながら旅を続けていますが、教会というとき、今生きているわたしたちだけを指しているわけではありません。すでに、この世の生を終え、清めを受けている人々もいます。さらに、この世の生活を終え、神のみもとで主を賛美している人々もいます。この三つの状態にあるキリスト者は、キリストの霊によって一致しており、霊的な善を交換していると教会は教えているのです。

神のみもとに在る聖人たちは、神と人との唯一の仲介者イエス・キリストをとおして、この地上の旅を続けている私たちのために、執り成しをしてくださって

います。こうして、私たちは自分でも気づかないうちに、聖人たちの執り成しによって、助けられているのです。聖人たちは、私たちの模範としてだけ存在しているわけではありません。諸聖人と交わりによって、私たちがキリストに従っていくことができるようにと、キリストにより強く結び合わされるのです。亡くなられた方々も、イエス・キリストの神秘体に属する人々です。教会は、その最初の時代から、死者の記念を行い、死者に尊敬を払っていました。そして、亡くなられた方々にもし罪が残っていたとするならば、彼らがその罪から解かれるように、祈ってききました。このような死者のための私たちの祈りは、死者を助けることになるのです。

キリストの家族を構成している神のみもとにすでに召されている人々と私たちは、相互の愛の交わりと、三位一体への賛美によって

互いに交わることにより、教会の使命に生きていることを、「死者の月」は私たちに想起させるのです。

死者の月はまだ、典礼年間の終わりの月でもあります。「王であるキリスト」(今年は十一月二十二日)を祝った翌週の主日から、待降節が始まります。待降節はキリストの二つの到来を待ち望む季節です。第一の到来は、降誕祭で記念する救い主の

誕生です。待降節が進むにつれて、日々の典礼は主の降誕に向けた準備としての内容が増してきます。第二の到来は、終末のときのキリストの再臨です。

年間最後の主日が「王であるキリスト」の祭日であるように、待降節の直前にあたる「年間」の終わりの期間で、教会はキリストの再臨を記念してきました。待降節は、この主の再臨への待望の内容をそのまま受け継いで始まります。

救い主の来臨に向かう長期の準備に心を合わせながら、再臨への熱い待望を新たに日々歩を進めて参りましょう。



王であるキリスト

Solemnity of Christ the King (John 18:33b-37)

By: Fr. Rodney Mondido, MSP

Originally, this feast was celebrated every last Sunday of October. But was moved, after the Second Vatican Council, to its present schedule, to emphasize that Christ will reveal to humankind the fullness of His glory as King only at the end time.

This feast of our Lord is a feast different from the other feasts we celebrate in His honor. It is different in the sense that, while the other feasts remind us of all that Christ has done for us, this feast reminds us what we are to do for Him in return.

Unlike the kings of the earthly kingdoms, who rightly expect their loyal subjects to die for them and their nation if need be, Christ our King died for us in order to make us free citizens of His Kingdom.

While, perhaps, He does expect us to be ready to die for Him and for His Kingdom, in truth, however, Christ does not demand this supreme sacrifice. What He does expect and demand is not that we die for Him, but that we should LIVE for Him. And the only and the best way possible we can do it, is by faithfully living our own Christian life, day by day.

When put in practice our Christian faith, we express and we confirm the Truth that Christ is truly our King. The King who rules and shapes the direction of our life.

When we say Christ is the King of our person and life, it means that in us, and in our everyday living, FORGIVENESS, PEACE, CHARITY, HUMILITY, SACRIFICE, and other gospel and kingdom values play prominently in our daily activities. It means that our life is a life of OBEDIENCE to the teachings of the Lord. And it means, most especially, LOVE is incarnated in us, in our actions, and in everything in our lives.

This passage we use presents a “non-king” image of Jesus because He was in trial. But this is so in order to present to us that Jesus as King and His Kingdom are different from what Pilate had and the other kings and kingdoms of the world. Jesus, Himself, uttered that His Kingdom is not in this world. While other kingdoms are limited, Jesus’ Kingdom is Universal. While others come and go, His Kingdom is Eternal. And in this Kingdom, Jesus wants us to be part. In His Kingdom He wants us to go. As God’s Children, He wants us to be heirs of this Kingdom which He prepared for those who are worthy.

In honoring Christ today as our King, let us especially thank Him for all the humiliations and sufferings He endured on our behalf. If our Christian way of living makes some demands on us, let us not forget how trivial they are when compared with what Christ’s earthly life cost Him. He made these severe sacrifices for us but we are being asked to make our small offerings and sacrifices, not for Him, but actually for ourselves. Let us then promise to be grateful and loyal subjects of Him for the rest of our days. Remember, He has made us members of His Kingdom on earth, the Church, and is preparing a place for us in His everlasting Kingdom. Let no one among us be so foolish as to ignore an eternal happiness because of some earthly attachment to the passing things of this world.

Happy Solemnity of Christ the King! Amen.



王であるキリスト

ロドニー・モンディッド神父MSP
首里教会・主任司祭



この世の王国の王たちが、自分や国のために、必要であれば忠実な臣下に当然のように死を求めるとは違い、私達の王キリストは、私達を神の国の自由な民とするために亡くなられたのです。

おそらく、キリストは、私達がキリストとその王国のために死ぬ覚悟があることを期待しておられます。けれども、この究極の犠牲

キリストは私達のまことの王であるということを表わされ、確かなものとされるのです。その王は、私達の人生の向かうべき方向を示してくださる王なのです。

私達が、キリストを自分とその人生の王であると宣言する時、ゆるしや平和、慈しみ、謙遜、犠牲や福音、その他、神の国のもろもろの価値あるものが、私達の日常生活の中ではつきりと働くようになります。それはまた、主の教えに従って生きる人生、また特に、私達の日常のあらゆる行いの中で、愛が実現される人生を意味しています。

相続人となることを意味しています。

今日私達の王として主を称えるにあたり、主が私達のために耐えてくださった全ての屈辱と苦難に感謝しましょう。もし、私達がクリスチャンとして生きる上で何かを強く求められていると感じるなら、イエス様がこの世で受けられた屈辱と苦難を思い出し、もう、そうすれば、私達のそれがいかに些細な事がわかります。イエスは私達のために、耐えがたい犠牲を受けられました。それにもかかわらず、私達に自分自身のためにわずかな捧げものや犠牲をずるようにイエス様は求められています。

それでは、私達に残された日々を感謝とともに、キリストの忠実なしもべとして生きることを約束しましょう。そして、忘れないようにしましょう。イエスが私達をこの世の王国、すなわち教会のメンバーとしてくださったことを。そして、終わることのない王国に私達の場所を準備して下さっていることを。この世の過ぎ去って行くものにとらわれ、永遠の幸せを無視するような愚かな人が一人もいませんように。アーメン

もともと、この祝日は十月の最後の日曜日に祝われていたが、第二ヴァチカン公会議以後、典礼暦の最後の日曜日に祝われるようになりました。これは人類にたいして、キリストが王としての栄光に満ちた姿を示されるのは、ただ最後のその時であるということとを強調するためです。

この祝日は、主の栄誉を祝う他の祝日とは異なっています。それは、他の祝日はキリストが私達のためにしてくださったことを思い出させますが、この王であるキリストの祝日は、私達が主に対して何をなすべきかを思い起こさせるからです。

を要求されてはいないので。キリストが期待し要求されていることは、キリストのために「死ぬこと」ではなく、キリストのために「生きること」なのです。キリストのために生きる唯一で最高の道は、キリスト者としての毎日を忠実に生きること達成されま

私達が、キリスト者としての信仰を忠実に実行する時、はじめて、

神の子にふさわしい場所として、イエスが用意してくださる王国の

※ お知らせ 「聖マリアの連願」に挿入する新しい呼びかけについて

教皇庁典礼秘跡省は、2020年6月20日付の司教協議会会長宛の書簡で、「ロレトの連願」と呼ばれてきた「聖マリアの連願」に、三つの新しい呼びかけを挿入することを通達しました。これは、多くの不安と混乱に満ちた現代において、愛と信頼に満ちたマリアへの助けを願うキリスト者の思いを心にとめた教皇フランシスコが、「聖マリアの連願」に新たな呼びかけを挿入するよう望まれたことに応えたものです。

2020年10月1日に開催された日本カトリック司教協議会常任司教委員会は、典礼秘跡省からの通達に基づき、『日々への祈り』(カトリック中央協議会)と『ロザリオの祈り』(同)に掲載されている日本語版の「聖

マリアの連願」に挿入する新しい呼びかけについて以下のように決定しました。

- 「天の栄光に上げられた聖マリア」の後に「あわれみの母聖マリア」を挿入する。
- 「恵みあふれる聖マリア」の後に「希望の母聖マリア」を挿入する。
- 「罪びとのよりどころ」の後に「移住者のよりどころ」を挿入する。

また、日本語版にある「キリシタン発見の聖マリア」を祝日(3月17日)の名称にあわせて「日本の信徒発見の聖マリア」に変更することも決定されました。

2020年10月拡大司祭・助祭会議議事録

開催日時: 2020年10月6日(火) 11:00~12:30 開催場所: 教区センター

1. 報告及び連絡事項

- ・始めの祈りはウェイン司教、司会はナビーン神父。
- ・前回(9月会議)の議事録確認-新田。
- ・ウェイン司教より10月17日から18日にかけての石垣教会公式訪問について、マイケル神父と確認が行われ、詳細については後日2人で討議することを申し合わせた。
- ・10月25日(日)は故石神司教の7回忌に当たるが、教区主催としての追悼ミサは行わず、納骨堂のある小祿教会において、ウェイン司教主式で追悼ミサを捧げてお祈りすることが報告された。各小教区では、主日のミサの中で共同祈願や奉獻文の中で故石神司教の為に祈りくださるよう要請がなされた。
- ・広報委員会から、教区報の増減について問合せがあり、変更は可能なので、早目に連絡いただきたいとの要請がなされた。また、主日、平日、クリスマスと年末のミサ時間についても、例年12月号に掲載しているので、変更があれば11月30日まで連絡するよう依頼がなされた。
- ・ウェイン司教より、コロナ禍などの影響で着任が遅れていた読谷教会主任司祭の人事について、フィリピン宣教会のリカルド・ブガス神父が10月14日に来沖されることが報告された。
- ・各小教区の教会委員会(役員会、信徒評議会、信徒会等)について、あらためてウェイン司教から各主任司祭に要請がなされた。名称は違っていても、各教会には信徒会や役員会といった信徒と主任司祭の協議の場が必要であり、予算や典礼、行事計画など、小教区の信徒たちと一緒に相談して主任司祭の独断ではなく、信徒たちと相談し、話し合っ て決めるよう注意がなされた。
- ・その他
- ・コロナ禍の影響で、ミサが行われていない巡回教会や修道院のために、聖体奉仕者の役割が重要になってきていることについて、ウェイン司教から報告がなされた。シスター達の修道院にある聖櫃と御聖体の取扱について、司祭たちは修道者たちに配慮して準備するよう促された。また、国立療養所にあるため立ち入りが制限されている愛楽園や南静園、伊江島や大里の巡回教会でも、必要に応じて特別聖体奉仕者を任命して、必要な方に御聖体が届けられるように配慮するよう要請された。
- ・福岡の神学院から養成担当者会議への出席依頼が来ているので、那覇教区ではヨアキム神父を臨時養成担当者とし、津波古事務局長と共に会議へ出席してもらうことが報告された。

2. 審議事項

- ・「ゆいまーるボックス」設置の提言を受けて、各小教区の取り組みについて報告が行われた。
- ・普天間教会: 9月の司祭会議の後、信徒に諮って寄付ボックスを設置。集まった品々を宜野湾社協を通して地域に役立ててもらえるよう寄付した。引き続き取組んでいきたい。
- ・真栄原教会: 第1日曜日に物品を持ち寄ることを信徒と確認。集まった品々を宜野湾社協に寄贈した。
- ・泡瀬教会: ボックスを設置して信徒に呼びかけている。留学生たちのために役立てたい。
- ・安里教会: 評議委員会で討議の上、集まった物品は既存の団体だけでなく、小教区で困っている信徒さんたちのためにも役立てたいと考えている。
- ・名護教会: まだ具体的には決めていない、検討中。
- ・開南教会: 以前から女性の会が中心になって、困っている方々への取組みがあるので、それをベースに物品等の寄付を募って提供していきたい。赤い羽根共同募金も長年継続して取組んでいる。
- ・コザ教会: まだ具体的には決めていない。
- ・首里教会: どういう取組みができるか検討中。
- ・宮古島平良教会: 宮古には以前から助け合いのために大鍋を置いて寄付を募る取組みがあるので、ゆいまーるボックスの代わりに活用したい。
- ・石垣教会: 評議委員会に提案してある。活動していく為の情報収集の段階。
- ・与那原教会: 主任司祭が病気療養中であったため、これから話し合っていく。
- ・石川教会: 外国人信徒が多く、転勤や移動の際にリサイクル品の寄付があるので、活用していきたい。クリスマスに向けてもチャリティー等の取組みを進めていきたい。
- ・小祿教会: 取組みの案内は掲示してあるが、10月4日の50周年に向けての準備に忙殺され、具体的な取組みはこれから進めていく。

- ・具志川教会：評議委員会で検討中。サントニーニョ祭等の機会を通して具体的な活動を考えたい。
- ・カリタス担当、マーシーさん：ゆいまーるボックスについて、英語のポスターを作成して案内。コザと読谷のフィリピン人家族が応じてくださり、それを提供できた。小教区や個人、既存の団体を通してそれぞれに取組みを進めて欲しい。
- ・ウェイン司教：沖縄の人は困っていてもそれを伝えることが恥ずかしいと感じる人が多い。信徒共同体として、中に困っている方々がおられないかを把握していくことも大切。教会として協力できるよう心がけて欲しい。また外国人留学生や研修生たちへの配慮も忘れずに引き続き支援頂きたい。
- ・教区司祭集会について、津波古事務局長より日程の説明と注意事項が、典礼担当のブイ神父から典礼当番票が配られ、協力が要請された。10月19日(月)～22日(木)まで名護を拠点に行われる。司祭・助祭の研修であるため、ミサの時でも信徒の参加はご遠慮いただきたい。
- ・マーシーさんから教区予定表の確認が行われた。コロナ禍で11月に予定されていたバザー等の中止が決まっており、11月は22日の真栄原教会の公式訪問だけが確認された。
- ・10月3日の聖フランシスコの祝日に教皇フランシスコがアシジにて発布された3番目の回勅「Fratelli tutti」(すべての兄弟の皆さん)の日本語の概要が配られ、読み合わせを行った。兄弟愛と社会的友愛がテーマとなっており、日本語版の全訳が出たら是非活用していただきたい。
- ・その他
- ・国政調査について、外国籍の司祭たちにも調査票への回答に協力をお願いしたい。
- ・ウェイン司教から司会のナビーン神父への感謝と、コロナ禍で大変な状況ではあるが、引き続き感染防止対策の徹底を司祭、助祭たちに協力願いたい旨要請がなされた。
- ・次回拡大司祭・助祭会議は11月10日(火) 午前10時～12時、教区センターで行われる。

2020年10月15日

記録：新田 選

承認：ウェイン・フランシス・パート司教



NPO 法人ぶどう園の会
訪問看護ステーションクララ

TEL&FAX:098-937-5001
 住所 沖縄市泡瀬2丁目37-15

- ・基本受付 月曜日～金曜日(申込、相談など)
- ・営業時間 8:30～17:30
- ・営業日 24時間365日(緊急対応含む)

カトリック文化センターからお知らせ

いつも文化センターをご利用いただき有難うございます。今年にはコロナ禍の影響もありバザー等の出張販売はできなくなりました。それに伴い今年には例年より早めにカレンダーや手帳等の店頭販売をスタートいたします。是非ご利用下さい。

問合せ：電話098-868-4649(新川・崎山)

●キリスト教関係の書籍、宗教用品等のご用命は、「カトリック文化センター」を通してご注文下さるようお願いしております。
〒900-0005 那覇市天久 1-8-7



葬祭の「やすらい企画」

私たちは故人とご遺族の意向を最優先に考えます。何でもご相談下さい。

那覇市首里鳥掘町4-57-3
 TEL&FAX:098-885-8205
<http://w1.nirai.ne.jp/yasurai>
 E-mail:yasurai@nirai.ne.jp

24時間受付

～ご遺族の心をもって奉仕する～
 そうてんしゃ

葬典社

- *創業30数余年・・・。
- *皆様に支えられ「感謝」とともに人生を閉じるためのお手伝いをさせていただいております。
- *ご質問、ご相談、24時間、いつでもお電話下さい。

「ゆうなの会」会員募集中です。

ひが たかしげ
 (実務担当) 比嘉 高茂

24時間受付

てんごく
☎098-853-1059



私は、昭和五十六年四月に開南教会で、有馬マテオ神父様より洗礼を授かりました。結婚の条件が、クリスチャンになることだったのです。妻は奄美大島の信者で、四十年前にベトロ神父様引率のイスラエル聖地巡礼団に奄美大島から参加しました。

洗礼を受ける前の私は、毎日のように酒、女性に溺れ、とうとう、沖縄の海で溺れかけ、九死に一生を得たということもありました。海で溺れた理由は、失恋をして、しばらく眠れない日が続いたということです。海で泳いだら疲れてよく眠れるだろうと思ひ、波上で海に入って泳ぎ始めましたが、あいにくのお盆前の低気圧・・・、海もかなり荒れていました。仰向けになつて休もうとしても、波が顔面にきて、仰向けの姿勢が取れなくなり、ずっと立ち泳ぎをしていました。

四時過ぎから海に入り、泳ぎ出してから、十時ごろまで、浦添の米軍基地キャンピングゾーンまで流されて体力の限界に近づきました。身体がブクブクと沈

んだところ、足が砂地に立つことができたのです。私は思わず両手を合わせて「神に感謝、神に感謝！」と叫び、砂地に上がると、讚美歌を歌いながら、基地の金網の方へ近づいていきま

前の方を見ると、アメリカ兵がライフル銃を持って立ち止まっています。兵士の首にかけてある十字架が暗い中に光って見えました。私が身に着けて



開南教会 山里 嘉郎

両親が待っていました。父も母も私を見るやびつくり仰天・・・、警察署の人たちも「よく生きて帰ってこれたねえ」と感心していました。

私は両親といっしょに、タクシーで那覇の実家に戻ってきました。父は、海運会社に勤めていて、手慣れたもので大びんのサッポロジャイアントビールを持ってきて、「よかったなあ」と言い、私に大びんを持たして

いるのは、ランニングとパンツとベルトだけでした。

軍のジープに乗せられ、兵舎の部屋に連れられ、軍の用意してくれたブランケット(毛布)にくるまり、熱いコーヒーを飲ませてもらいました。その部屋で、事情聴取を受けました。その間に、警察や私の両親に連絡がいき、両親は浦添署に呼ばれていました。軍の取り調べが終わり、浦添署のパトカーが迎えに来てくれました。浦添署には、

両親が待っていました。父も母も私を見るやびつくり仰天・・・、警察署の人たちも「よく生きて帰ってこれたねえ」と感心していました。

います。しかし、今までのように、酒を飲んで幾度となく失敗をくりかえしておりました。ある日のこと、ベッドで寝ていると、妻が私の頭の上からワインを一本全部ザブザブとかけました。私は、ワインをかけたままながら、今までのことを、妻にすまないと思ひ、反省しました。ワインの冷たさが身体はもちろん、心の奥底までしみとおりました。こんなにも真剣に、「これでもか、これでもか」と、ワインを必死にかけ続ける妻を見て、これで、ほんとに飲酒はやめようと心に決めました。それでもまた飲むこともあるのですが・・・。

時が経つのは早いもので、私も六十五歳になり、今年八月、千葉県から沖縄に帰ってきました。千葉の生活もよかつたけれど、やはり、生まれ故郷もいいなあーと思つているこの頃です。

最近、毎日、朝のごミサに行き、ごミサが終わると近くの農連市場で、コーヒーを飲むのが、毎日の日課になつており、楽しんでいきます。長男も千葉県から、自転車ではるばる沖縄に戻ってきました。

私に、酒を飲んで幾度となく失敗をくりかえしておりました。ある日のこと、ベッドで寝ていると、妻が私の頭の上からワインを一本全部ザブザブとかけました。私は、ワインをかけたままながら、今までのことを、妻にすまないと思ひ、反省しました。ワインの冷たさが身体はもちろん、心の奥底までしみとおりました。こんなにも真剣に、「これでもか、これでもか」と、ワインを必死にかけ続ける妻を見て、これで、ほんとに飲酒はやめようと心に決めました。それでもまた飲むこともあるのですが・・・。

今までは、四人の子どもたちも社会人になり、幸せに暮らして

私の五人の兄弟も弟と私の二人だけになってしまいました。弟は、朝、昼、晩と食事を作ってくれます。いつも弟には迷惑をかけていますが、心の底で、ありがとうと言っています。子どもたちは、上手に教育できなかったけれど、少しずつ信仰を共にしていきたいと思ひます。

今までは、いっしょにごミサをした霊的ブラザーや習志野教会、市川教会、新潟高田教会で、お世話になった皆様には、この場を借りて感謝申し上げます。私は、学生相撲をやっています。相撲のケイコはあまり好きではなかつたのですが、学校を卒業してからは、学生相撲の観戦によく足を運びました。「心・技・体」と言いますが、神様も相撲が好きだと思います。そうであつてほしいなあーという私の思ひです。実家では四股を踏むのが日課のようになりました。

今までは、いっしょにごミサをした霊的ブラザーや習志野教会、市川教会、新潟高田教会で、お世話になった皆様には、この場を借りて感謝申し上げます。私は、学生相撲をやっています。相撲のケイコはあまり好きではなかつたのですが、学校を卒業してからは、学生相撲の観戦によく足を運びました。「心・技・体」と言いますが、神様も相撲が好きだと思います。そうであつてほしいなあーという私の思ひです。実家では四股を踏むのが日課のようになりました。

今までは、いっしょにごミサをした霊的ブラザーや習志野教会、市川教会、新潟高田教会で、お世話になった皆様には、この場を借りて感謝申し上げます。私は、学生相撲をやっています。相撲のケイコはあまり好きではなかつたのですが、学校を卒業してからは、学生相撲の観戦によく足を運びました。「心・技・体」と言いますが、神様も相撲が好きだと思います。そうであつてほしいなあーという私の思ひです。実家では四股を踏むのが日課のようになりました。

今までは、いっしょにごミサをした霊的ブラザーや習志野教会、市川教会、新潟高田教会で、お世話になった皆様には、この場を借りて感謝申し上げます。私は、学生相撲をやっています。相撲のケイコはあまり好きではなかつたのですが、学校を卒業してからは、学生相撲の観戦によく足を運びました。「心・技・体」と言いますが、神様も相撲が好きだと思います。そうであつてほしいなあーという私の思ひです。実家では四股を踏むのが日課のようになりました。

教区 NEWS 教会

那覇教区司祭・助祭特別集会

十月十九日から二十二日まで、名護を会場に、司祭・助祭特別集会が開かれた。コロナ禍で様々な行事や会議が中止・延期される中、今集会では久しぶりに教区内の司祭・助祭が一堂に集い、共同司式ミサ、研修、地球温暖化問題、教皇回勅・ラウダート・シの勉強会などを行った。

また、三日目にはミッション

コロナ禍の中で迎えた五〇周年

小祿教会

今年二〇二〇年、当教会は創立五〇周年を迎え、十月四日に感謝ミサが捧げられた。三年ほど前から、五〇周年記念行事をどのような形で迎えるべきかを信徒それぞれが気に懸けてはいたものの、具体的に動き始めたのは二〇一九年の六月からであった。

まずは二〇二〇年度の小祿小教区の教会目標を定めることとなり、信徒に呼びかけて標語を募り、「キリストに結ばれて、喜んで信仰を証しする」が選ばれた。二〇一九年六月、五〇周年記念行事実行委員会が組織され

ビーチで一日過ごし、

ミサ、分かち合い、海水浴、BBQ、ハッピーアワー

を楽しみ、兄弟的交わりや絆を深めた。素晴らしい機会からの英気を胸に感謝のうちにそれぞれ

任地に向けて散開した。



た。委員会では、記念誌の発行、記念誌用の写真収集、記念Tシャツの作成と販売、記念講演会企画、御聖堂のペンキ塗り替え、和室の畳表の張り換え、記念品、祝賀会の企画、資金作りのためのキャロリング、ポスター作成、それぞれの係分掌、特別予算編成ならびに資金捻出について話し合われた。

Tシャツのデザインは島袋マージーさんに一任。講演会の講師は森一弘司教様をお願いした。私たちの取り組みが遅々として進まないうちに二〇一九年の幕が下り、とうとう二〇二〇年となった。拍車をかけねば間に合わないと思えりが出た丁度

そのころ新型コロナウイルスが日本に上陸し、瞬く間に全国各地に感染が拡大した。各種催しの中止または縮小化、小中校の臨時休校、不要不急の外出自粛が要請され、外国からの入国制限が行われるようになり、オリンピックも延期された。観光客や県内外からの出入りが多い沖縄では緊急事態宣言がだされ、飲食業の夜間営業時間制限など、人々は目に見えぬコロナウイルスへの対応を余儀なくされた。カトリック教会でも全国的に公開ミサが暫く中止されることになった。

感染拡大の波の終息が、いつになるか専門家も予測できない状況となり、小祿教会の五〇周年記念行事の計画も残念ながら大幅に縮小せざるを得ない状況となった。そのような中ではあったが、どうにか幾つかの取り組みは実行できた。記念Tシャツは多くの方々

の協力を頂き、五〇〇枚近くも販売することができた。



根や外壁のペンキ塗り替えもできた。キャロリングによる資金作りも予想以上にうまくいった。御聖堂の内壁に「十字架の道行き」のレリーフ十四枚が新しく掛け替えられた。これは信徒Kが創立五〇周年記念にイタリヤに注文して取り寄せ寄付したものである。和室の畳表も信徒Mの寄付で新しく張り替えられることとなった。

御聖堂の廊下には、小祿教会の歴代主任司祭の写真が掲げられた。

五〇周年感謝ミサ当日は晴天に恵まれた。ミサはウエイン・バーント司教様、押川司教様、デニス神父様の共同司式のもと、喜びあふれる中でおこなわれた。三密を避けるためソーシャルディスタンスに配慮しつつ、御聖堂、廊下、かつ窓外で人々はミサにあずかった。

ウエイン司教様は、創立当初、カプチン修道院の

聖堂を小祿の信者は使わせてもらい、修道院の傍らに自分たちの聖堂を建てた後も何かとカプチン会の兄弟と接する機会を持ち、カプチン会の神父様や修道士の方々から様々な影響を受けたこと、逆に小祿教会の信者からカプチン会員が色々なかたちで支えてもらったことについて話され、小祿教会への神様の特別な計らいにふれられた。ラ・サール神父様との懐かしい思い出をも熱くお話しなされた。

その日のミサの福音はぶどう園とその主人についてであった。司教様は、ぶどう園の主人の行いを通して神様の愛の深さについてお説教されたあと、「私たち

の心はぶどう園である。福音を肥やしにして、よいブドウを实らせましょう。愛のパンデミックを起しましょう」と話を結ばれた。神様への感謝と喜びがあふれる中、ミサが閉じられた。ミサの後、参加者には家族ごとに、聖パードレ・ピオのロザリオ、聖フランシスコの平和の祈りのカード、紅白のかるかん饅頭が配られた。

こうしてコロナ禍のなかで迎えた五〇周年記念日の幕が人々の胸の中に感動の余韻を残し静かに下りていった。

(久保田陽子)

美わしマリア様と 善意ユイマールボックス

普天間教会

九月八日は、マリア様の誕生日でした。普天間教会でも、マリア様を美しく飾り、お御堂から山城会館まで美しいマリア様を先頭に行列を作り、会館ではケーキを準備し、マリア様への感謝を込めてお祝いしました。そして、コロナ禍で困っている方々への支援を！と、司祭会議で呼びかけられたことを受けて、さっそく、ナビーン神父様からミサ後、みんなへの呼びかけがありました。家庭にある物保存の効く食品等々、皆さまから善意溢れる食品が次々と届けられました。お米、缶詰、ラーメン、お菓子、生活用品、等々。二週間もすると、たくさんのお品々が集まりました。



さまが前向きに頑張っていたことを願っています。

第一回目の贈呈の後、食品を

寄贈して下さる方々の善意は、今も継続しております。協議会の壁に掲示してあります。また、「ちゅういしーの心」は、見返りを求めない奉仕の心の意味があり、教会が目指す「人々に奉仕する無条件の愛」とつながります。神様のいつくしみ

の心を大切に、温かい善意を、みんなで大切に育んでいけたらと、願います。神に感謝！

(石嶺洋子)

石垣教会ニュース

① 司教様公式訪問

十月十八日の主日に、ウエイン司教様は、当教会訪問の日程を組

んでくださいました。一番のフライトで来られ、優しく包み込むよう

な「司教様スマイル」のお姿に、信

徒たちは、まず安心いたしました。マイケル神父様との共同司式のごミサ。お説教は私たちがより受け止めやすく、気づきを助けるわかりやすいお話でした。沖繩に育まれた福音的価値観のことばで「ちむがなさ」のごあいさつ、特に、今のこの社会情勢の生活の中で、神様の導きに信頼し、それぞれが主に託された使命を果たせるように、ゆいまる（共生）、ちむぐるさん（共感）、いちやりばちよーでー（友愛）、ぬちどうたからなど、たとえのお話で気づきを促し、私たちが感謝の気持ちで満たしてくださいました。お世話になった高齢の神父様がたの近況や教区の企画、幼稚園建設など聞かせていただきました。限られた時間のなか、学校の先生方、シスター、教会評議員との話し合いも持つてくださいました。コロナ禍の試練を乗り越えられるよう「感染予防ガイドライン」に沿っての、遵守、徹底のご指導で、ごミサにも与れます。

② 敬老の日の民謡ミサ
石垣教会は古くから教会の催し事には、八重山民謡の曲に信徒が信仰心を作詞した唄（司教様認可）を歌っております。民謡聖歌は、一九五九年三月に「石垣永将翁殉教物語劇 八重山の華」（三日公演）海星幼稚園園舎落成備品支援）劇中で唄われたのが始まりで、その二曲は今でも歌い継がれております。

◆「救い主節」Ⅱ・曲「鷲の鳥」
・作詞「石垣信著」第六代、十一代信徒会長 ◆「愛のみなもと」Ⅱ・曲「でんさ節」・作詞「波照間永伴」第三代信徒会長 ◆「敬老とうばらーま」Ⅱ・曲「とうばらーま」詞「箴言、ヨブ記より 玉城功一」第十四代信徒会長、石垣永将研究会会長。

今年も民謡ミサで、毎年配布される祝い名簿が出されました。七六歳〜九六歳の四〇名ですが、コロナ禍予防重点項目の取り組みを守りつつ、お元気な方が参加しました。

ごミサでは、入堂「救い主節」をみんなで唄い、拝領「敬老とうばらーま」「玉城功一」。唄、閉祭に「愛のみなもと」を皆で唱和しました。演奏は、石垣教会三

線グループです。
唄三線・玉城功一、平良常、河口儀子、川平京子、笛・平良秀司（現信徒会長）。

石垣教会の聖堂は二階にあり、窓を全開し、風通しよく三蜜なしの環境です。
神父様は、石垣教会の高齢者が神様を讃美する「唄い民謡」の文化に信仰の心を受け継いできたことを讃え、最後に「コロナ禍の中、今まででない民謡ミサでしたが、かえって、より感謝するお恵みをいただきました」と語られました。（河口儀子通信員）

救い主節

- ① 天ぬ声 拝みようり 神ぬ御教 守りようり
- ② キリストぬ 生まれおうり 神ぬ子ぬ 降れおうり
- ③ 愛の心 育ていおうり 神ぬ道 ひろみようり

愛のみなもと

- ① 愛のみなもと 人の子よ 命の泉 世の光
- キリストは 永久に道を照らすよ デンサー
- ③ 求める人は 与えられ 探す人は 見つけ出し
- たたくなら 神は開けてもらうよ デンサー

計報
◆開南教会
アンナ 當銘 春子様
二〇二〇年九月十四日 帰天享九十三歳